



宇宙

Vol.69

●題字は深町正喜氏



GONGOVA村人 (山田隆史氏撮影)

■ 2017GONGOVA活動報告	2・3	■ 第27回 老人保健施設大会	7
■ 新任あいさつ	4	■ 新人紹介	7
■ 聖陵会新人職員歓迎会	4	■ 日田漫歩 ⑤4	8
■ 新人オリエンテーション	5	「珠玉&種玉」	
■ 新人日帰り研修	5	■ 編集後記	8
■ 食べる喜びは元気の源!!	6		
ソフト食とは…歯茎や舌でつぶせる食事			
ゼリー食とは…咀嚼せず容易に飲み込める食事			

2017 GONGOVA 活動報告

今回初めてGONGOVAに参加させて頂きました。タイは初めてで現地到着までは楽しみ半分、不安が半分といった複雑な心境でした。

参加しようと思ったきっかけは、以前からGONGOVAに興味があったこと、また現地では腰痛や膝痛を訴える患者さんが多いという話を聞いて、僕にも何か出来る事があるのではないかという気持ちでだんだん大きくなり思い切って参加を希望しました。



(バケツリレー方式の様子)

2月25日(土)～3月4日(土)1週間、タイ チェンマイ県ジョムトン郡バン・マイ・ホエ・ヒア村(白カレン族)を訪問しました。村はチェンマイから車で2時間半の場所で途中道が舗装されておらず、車の中では姿勢を保つのが大変なほど揺れが強かったです。

村では9名の評価・治療を行いました。症状は、変形性膝関節症と思われる方が3名、腰痛が2名、右上下肢の痺れ・左腸脛靭帯痛・右肘関節変形・膝蓋腱炎疑いが各1名でした。また、胃痛・ケロイド様皮膚変性の方が1名で看護師の藤田さんに対応して頂きました。村の方は直接的な治療を好み、「薬を下さい。」や「注射はしてくれないのか?」といった訴えが多かったです。

村は山間部にあり基本的には坂道が多い環境で、また住居は高床式で階段を使用する頻度がとても高く膝に負担がかかる生活を送っています。山間部ということで作業は中腰かしゃがんだ姿勢で行っており、膝や腰に非常に負担がかかる体勢で作業をしていました。主な作業は中腰でタマリンドウという実を拾い、しゃがんだ姿勢や長坐位で、殻を剥く作業や糸を紡ぐ作業を行っていました。長年の積み重ねで慢性的な痛みを発症しているものと思われます。痛みが強い時の対処法や生活上の動作、姿勢の工夫などを伝えてきました。

評価・治療がない時は、スタッフや学生及び村人と共に作業を行いました。自然の恵みを利用し太陽光発電による蓄電は行っていますが、基本的に電気は通っておらず、また今回の作業では車もつかえない状況だった為ほぼ手作業でした。入村初日には、雨期に雨

で土砂が流されないようにするための堰を作る石を運ぶ作業を行いました。山田隆史先生が発案したバケツリレー方式がかなり浸透しており、作業効率のアップに貢献していました。その後は何か運ぶ作業の時は村人も自然に列を作るようになりました。その他、村にある幼稚園の清掃や新しく建てられた養蜂場まで水道管を引く為の溝堀、道路の舗装作業を行いました。久しぶり鍬を使い、言われるがままひたすら溝を掘り続けました。道路の舗装作業では、まずセメントを流す道を鍬で

(診察の様子)



ならし、鉄筋の代わりに竹をしいていました。セメントは交代で混ぜこの日は合計5回セメントを作る作業を行いました。慣れない作業できつかったですが、どこか清々しい気分になりました。みんなで同じ作業を行っている、自然に会話も生まれスタッフや学生・村人とコミュニケーションをとることができました。作業活動を通じて生活をする為には、水や道路整備の必要性を改めて感じました。そして、本当に必要な場所で必要なことをすることが大事だとGONGOVAスタッフの方から教わりました。

今回の活動を通じて不便な生活でも人は豊かに生きていけると思いました。村の子どもたちは笑顔が絶えず、村人の表情も穏やかでした。どこから来たのかわからない外国人にも声を掛けてくれたり、果物の差し入れをしてくれたりととても優しくかったです。夕食後は学生や村人と一緒に、自然と村の言葉「パガニョー語」と「日本語」の勉強会がスタート。村の人はとても勉強熱心でした。周りにあるものを指さし「これは？」と質問。お互いの言葉で言い合ってメモしていました。日本ではテレビを見たり、スマートホンをいじったり人と話す時間が少なく、最近こんなに会話をするがありませんでした。便利な世の中だから得られるものもありますが、不便だからこそ得られるものもあると思いました。5日間という短い滞在で大きなことは言えませんが、まちがいなく僕は恵まれた国に生まれて、恵まれた生活を送っていると実感しました。世界には、この様な生活を送っている人もいるということを忘れてはいけないと思いました。

1週間という長い間お休みを頂き、2017GONGOVAに参加させて頂き本当にありがとうございました。理事長をはじめ職員の方、そして家族に感謝したいと思います。また、川嶋教授をはじめ富田さん、宮入さん他GONGOVAスタッフの皆さんには大変お世話になりました。無事活動を終えられたのもスタッフのおかげだと思います。ありがとうございました。また、機会があれば参加したいと思います。



新任あいさつ

DOCTOR



4月より聖陵岩里病院へ赴任いたしました家永 淳と申します。
生まれは長崎です。2000年に九州大学を卒業し医師となりました。九州大学第一外科に所属し17年間さまざまな病院で外科手術や内視鏡治療、化学療法などを学んできました。
専門は消化器外科です。近年、医学の進歩により腹腔鏡手術が胃や大腸の手術に広く取り入れられるようになってきました。キズも小さくてすみ、術後の回復が早い優れた治療です。当院でも安心してこういった治療を受けることができます。日田の皆さんが最新の医療を受けられるよう、知識・技術の研鑽に努めていきたいと思えます。

聖陵会の一員となり、外科のみでなく、一般内科、救急治療などたくさんの患者さんと関わっていきたくと考えています。

休日は本を読んだり、映画を観たりすることが多いです。キャンプなどアウトドアも好きです。まだ未熟ですが一生懸命がんばりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



聖陵会新人職員歓迎会

平成29年度4月14日(金)マリエールオークパインにて今年入職された中途採用を含む19名の新人歓迎会が行われました。

ゲストのご紹介や、聖陵会岩里正生理事長のご挨拶があり、小南達矢副理事長の乾杯で始まりました。

新人職員の余興では、上司が協力しての柳川クイズが行われ、どの柳川も職員をもじった面白いもので、会場からは沢山の笑い声があり好評でした。新人職員を代表し聖陵岩里病院医師の家永淳先生がご挨拶されました。

今回聖陵会が特定医療法人に認定され、その評価委員を努めて下さるうちの、17名の方々もお招きし総勢240名程の賑やかな歓迎会となりました。

新人職員の仲間を交え、心技体、互いに深め合いながらより一層、実り多い一年にしていきましょう。



(余興の司会者)



(岩里理事長あいさつ)



(新人職員のみなさん)

新人オリエンテーション

平成29年4月1日に行われた新人オリエンテーションに参加させていただきました。聖陵会の概要や接遇、施設について詳しくお聞きすることができました。

午前中は聖陵ストリームにて、連携している病院や施設内の見学、訪問看護ステーションなどについて学びました。どの施設も地域との関りを大切にしており、基本理念通り地域への奉仕活動が盛んであるという事が分かりました。

昼食も頂き、利用者さんが食べられているソフト食を試食しました。舌のみですり潰すことが出来、手間と時間をかけて作られているのがよくわかりました。味もとても美味しかったです。

午後からは聖陵岩里病院にて、防災や各委員会の特徴をお聞きしました。その中でも安全管理委員会と感染対策委員会は特に重要だと感じました。安全管理委員会は、病院内の改善点を事前に提出してもらうことでより良い病院を目指している印象でした。感染対策委員会は院内感染を防ぐためにシールにて視覚的に分かりやすく表示し患者さん、ご家族の方、スタッフ全員を守る活動をされていました。



平成29年度 新人日帰り研修

4月9日(日)、新人7名、引率者7名の計14名で新人日帰り研修に行って来ました。

朝8時半にストリームで集合し、本川牧場まで約40分、桜を見ながらウォーキングをしました。本川牧場に到着後は、理事長も参加してのミーティングや乗馬、動物との触れ合いを行いました。

その後、また歩いてサッポロビールまで行き、昼食に焼き肉を食べながら色々な話をして、新人職員と引率職員との親睦を深めることが出来たと思います。

午後からは、福岡県みやま市にある東照寺に行き、滝業や住職の講話を聞き帰って来ました。

今回の研修では、乗馬をしたり、滝業をしたりと、普段なかなか経験できないことを経験でき、とても充実した1日となりました。

また、自然の中で新人職員同士、話をしながら歩いたことで、距離を近づける事ができ、思い出に残る時間となりました。



食べる喜びは元気の源!!

聖陵会では、咀嚼、嚥下に問題がある方に対して、**ソフト食・ゼリー食**を患者さんの状況に応じて提供しています。『口から食べる』という動作は消化器官だけでなく、視覚、味覚、嗅覚などの五感を刺激し、各部の筋肉など多くの身体的機能を使うため、全身に良い影響を与えます。できるだけ口から食事を食べてもらえるよう、咀嚼しやすく(舌でつぶせる)、飲み込みやすく、べたつかず、喉に貼りつかない、見た目の良い食事を提供するため、キザミ食やミキサー食を廃止し、ソフト食・ゼリー食を取り入れて来ました。

ソフト食とは・・・歯茎や舌でつぶせる食事

(内容) 形はあるが押しつぶしが容易。食塊(食べ物を口に入れた時に噛み砕き、唾液(だえき)と混ぜ合わせて出来た飲み込む前の塊)形成や移送が容易。咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの。舌で容易に押しつぶしが可能なもの。

- (対象)
- キザミ食を食べていた方
 - 咀嚼に問題がある方
 - 入れ歯が合わず噛むことが出来ない方
 - 歯が少なく上手く噛み砕きが出来ない方
 - 手術後の方(7分粥)



(いり鶏)



(煮魚)

ゼリー食とは・・・咀嚼せず容易に飲み込める食事

(内容) 均質で付着性(食物が口腔内にベタつく度合いのこと)・凝集性(舌で押しつぶされた食物が結着し合って飲み込みやすい食塊を形成する能力のこと)・硬さ・離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの。少量をすくってそのまま丸飲み可能なもの。

- (対象)
- ミキサー食を食べていた方
 - 咀嚼、嚥下に問題がある方(噛み砕いて、食塊の形成ができない方)
 - 口内炎があり食事により痛みのある方
 - 食事をしていてムセがある方
 - 手術後の方(3分粥、5分粥)
 - 認知症で咀嚼せずに食事を丸飲みされるような方



(煮魚)

*退院、退所後の食事に不安をお持ちの方。ソフト食、ゼリー食に興味のある方は栄養士にご相談下さい。
(岩里病院、聖陵ストリーム栄養給食科まで)



(いり鶏)

第27回 老人保健施設大会

平成29年2月19日(日)別府ビーコンプラザで開催された第27回老人保健施設大会にて、ストリーム2階職員が「レクリエーションに対しての職員の意識改善」と題して、マンネリ化していたレクリエーションを改善する為にフロアスタッフ6名で取り組んだ内容を発表しました。

また、その中でストリームの平将門事務長が永年にわたる介護老人保健施設の資質向上や発展に尽力した功績が認められ(公社)大分県老健施設協会より個人表彰を受けましたので、平事務長のコメントを紹介したいと思います。

～平事務長のコメント～

この度、(公社)大分県老健施設協会より個人表彰をいただきましたこと、本当に光栄であり、大変嬉しく思っています。

平成11年に聖陵ストリームに配属され、それから協会の活動に参加しつつ、また日田玖珠地区代表や部会副代表等を務めたことを表彰されたものと思います。

しかし、この受賞は私1人の事でなく、聖陵ストリームの職員皆さんの理解や協力のおかげだと思っています。今後も、人とのつながりを大切にして、職員のみならず共に少しずつ積み上げていながら、聖陵ストリームの発展への活動を継続していこうと思います。



新人紹介



わたなべ たくろう
渡辺 拓朗
生年月日/11月27日
血液型/A型
所属/聖陵岩里病院 テイクア リハビリ
趣味/スポーツ
★利用者様により良いリハビリが提供できるように、努力し続けたいです。



ごとう ゆみこ
後藤 由美子
生年月日/11月25日
血液型/AB型
所属/聖陵岩里病院 病棟看護部
趣味/映画鑑賞
★出産・育児のための2年のブランクがありますが、1日でも早く看護業務に慣れる様に努力していきたいです。



いちの みやゆか
一ノ宮 優香
生年月日/9月30日
血液型/O型
所属/聖陵岩里病院 調理部
趣味/音楽鑑賞
★まだまだ未熟な部分も多いですが、沢山勉強して調理について学んでいきたいです。



よしだ ともこ
吉田 友子
生年月日/11月13日
血液型/A型
所属/託児所 メーテル
趣味/ドライブ
★体力には自信があります！お預かりした大切なお子さん方と、毎日元気いっぱい過ごしたいと思います!!



たかくら きみこ
高倉 希美子
生年月日/5月21日
血液型/AB型
所属/ストリーム 栄養給食科
趣味/字を書くこと
★仕事がスムーズになるための地道な努力をしたいと思います。



せお たかし
瀬尾 尚史
生年月日/1月6日
血液型/B型
所属/聖陵岩里病院 放射線科
趣味/探し中
★早く仕事を覚え、少しでも役に立てるよう頑張ります。



うめ はらはる な
梅原 春菜
生年月日/3月18日
血液型/A型
所属/訪問看護ステーションいわさと
趣味/犬の世話
★初めての訪問看護のため、わからないことがたくさんありますが、一生懸命がんばります。宜しくお願いします。

目田漫歩 ⑤4

「珠玉&種玉」

楢原義則



知人の中国文学者が「『しゅぎょく』を持つと結構大変だ」とこぼした。しゅぎょく？ 女房のことだ、と言う。字体は「種玉」。何が大変かは聞かなかったが、彼の奥さんは昔から美形だ。広辞苑を引くと、中国・漢時代のお話から「美人を妻にすること」とある。学者とは面倒くさいことを言うものだ。「種玉」の前の言葉が「珠玉」。「美しく尊いもの」とある。

各地を巡ると、さりげなく珠玉のようにきらめく人、野に埋もれて磨かれない金剛石のような人などに会う。「珠玉の人」は、日田のボランティアネットワーク「チーム大分」代表、梅山忠信さん(76) =写真=が似つかわしい。



東日本大震災や熊本地震で有志を糾合し、被災者の心に寄り添うため、物心両面で東奔西走する姿に感動する。具体的な活動内容は割愛するが、彼のエピソードを紹介したい。

手元に、梅山さんを取り上げた毎日新聞の連載記事「カントリー歌手にかけた夢」(199

3年10月、計4回)がある。当時、52歳。全電通(現・NTT労組)大分県支部委員長。米カントリー界の大物、ハンク・ウィリアムス・ジュニアの大分公演(94年)を実現させたときの奮闘記をつづった。その中で梅山さんは「例えば災害をテレビで見た人は、みんなが可哀そうと思い、その何割かは手助けしたいと考える。だが、大半はそこで止まってしまう。おれは何かしたいと思ったら、やらずにおられない」と記者に語った。そこに、彼のボランティア精神の「原点」が見える。

ところで、東日本大震災で動き出す直接のきっかけは翌日、「何かしなくてもいいの?」という妻久美子さんの一言だったという。「珠玉の人」は「種玉の人」に支えられていた。



チーム大分が益城町で開いている「出前うたごえ喫茶」の光景

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

編集後記

今年は桜の開花が例年になくおくれ、大分では4月4日が開花で29年ぶりの遅咲きだったそうです。その代わり入学式では満開の桜咲く1年生の姿が見られ花を添えたのではないかと思います。

今や約250名の職員を抱える聖陵会、その中で岩里病院は昨年30周年を迎えました。

今年も新入職員が加わり新しい風を吹き込んでくれることと思います。ちなみに、私が新採用された20数年前は病院からお歳暮・お中元が贈られ、自宅の玄関に届け物を持った横尾さん(現ストリーム職員)が立っていたのを思い出します。

今は職員も増えそのような事は出来ませんが、職員を大切にしようと思う聖陵会の思いは今でも変わらず違う形で受け継がれて行くことと思います。

広報委員会「宇宙」担当

情報
発信中

聖陵会ブログ「セイントボイス」 <http://ameblo.jp/seiryou/>
日田紹介ブログ「いい日田! 夢気分!」 <http://ameblo.jp/seiryou2/>



医療法人 聖陵会

救急指定 聖陵岩里病院

〒877-0052 大分県日田市銭湊町16番地の18 TEL0973-22-1600

訪問看護ステーション いわさと

〒877-0052 大分県日田市銭湊町4-3 TEL0973-22-1618

介護老人保健施設 聖陵ストリーム

〒877-0075 大分県日市中釣町458-3 TEL0973-26-1311

居宅介護サービスセンター/訪問介護サービスセンター/子ども発達・支援センター 銀河

聖陵花月クリニック

〒877-1232 大分県日田市大字三和931-6 TEL0973-27-5050

アンコール小児病院(カンボジア)

■ホームページ

<http://www.seiryu.or.jp/index.html>

■E-mail

ryo-ho@be-net.kcv.jp

